

# 七友会 だより

## 追悼 牧 陽之助先生

### 「牧先生を偲んで」

平成13年度卒業 飯村 幸代

私は、平成12年から13年にかけて、牧研究室に所属し、先生の御指導を仰ぎました。

牧研究室に所属したのは、当時、同学年では私一人でしたが、毎週のゼミでは一対一で生物学・生態学について、基礎から親身に教えて頂きました。また、北上川河口域でのフィールド調査では、現場の事象を科学的に捉える視点を学ばせていただきました。「現場に行かなければわからない。いくら論理を唱えても現場で覆されることはよくある」、「ゼロという値も立派なデータである」、海域、河川の調査設計を仕事としている現在においても、牧先生のおっしゃった言葉が時々思い出されます。

牧先生は、人としてどうあるべきか、常に私と真摯に向き合ってくださいました。研究室での飲み会は頻繁にありましたが、日本酒を飲みながら、楽しそうに話をされる先生の姿は今も忘れられません。

牧研究室にいた一年半が楽しく、充実していたのは、先生のあったかい人柄によるところが大きかったのだと今、改めて思います。

### 「牧先生との釣り」

平成19年度卒業 村上 将孝

牧先生との思い出は、外来魚の駆除と称した網取ダムや四十四田ダムでのブラックバス釣りです。

当時の牧研究室の活動は、県内各地で行われていた外来魚駆除への参加やダムで釣りをした後のバーベキューなど、ブラックバス一色でした。私の卒業研究もブラックバスの生態がテーマでした。そのための個体数の確保には先生も協力してください、休日だけでなく、講義の合間でさえも一緒にダムに向かいました。

そんな中、いよいよ先生が一人で釣りに行き始めました。このことは、釣りを教えた私にとっては驚きであり、喜びでもありました。何度も一緒に糸を垂らしましたが、特に会話もせず、ひたすら自然と一体となるように努めました。フィールドが好きで、自然が好きな先生には音楽に似た調和がしっくりきたのかも知れない。

岩手に帰ったとき、弟子であり恩師でもある牧先生とのあの空間を二度と楽しめないことは非常に残念であり、釣りをしたあの頃がとても懐かしいです。

### 「牧先生との思い出」

平成14年度卒業 鈴木 寿子

牧先生と初めて出会ったのは、平成11年の春、大学での新たな生活に希望と緊張を感じていた頃でした。私は、広い教室を埋め尽くすたくさんの学生の一人として教養科目を受講しており、教室全体に響く声で講義をされている先生に、とても関連な印象を受けました。

その後、卒業論文の指導を頂くことになり、毎月のように北上川の河口に調査に行くようになってからも、その印象は変わりありません。卒業論文を何度も書き直していた時期に、「論理的な文章ではないなあ」と耳の痛い指摘をされたときでも、先生の歯に衣着せぬ御指導はどこか暖かく、後ろ向きにならず、何とか書き上げることができました。

いつか、先生と当時のことをお話ししたい、と思っていましたのに、もうその機会がなくなってしまったかと思いますが、いまだ信じられず、悲しくてなりません。でも先生はきっと、学生が落ち込んでいたら「めそめそして、駄目だなあ!」と、あの素敵な笑顔で叱ってくださいのではないかとと思っています。心から御冥福をお祈りします。



平成23年7月2日  
〔震災からの復興祈念交流会にて〕

### 「牧先生との大切な思い出」

平成23年度卒業 近藤 翼

牧先生と私たち研究室の学生との思い出といえば、やはり授業や卒業研究で先生と一緒にフィールドに出かけて調査したこと。先生はいつもカメラを傍らに、私たちの作業を見守り、時に先生自ら熱心に指導してくださいました。

卒業研究に関しては、難しい要求をされることもしばしばでした。しかし、学生一人一人のことを考え、真剣に向き合ってください先生の人柄のためか、不思議とトコトン頑張ってみようと、思えたことが印象に残っています。

先生に卒業論文の発表を見ていただくことはできず、奥様から、先生が病を闘いながらも私たちの卒業論文の出来を心配されていたというお話を聞き、改めて素晴らしい先生のもとで学べていたことを実感いたしました。

最後に、牧研究室で学んだ学生一同にかわり牧先生に今までの感謝を申し上げ、心からの御冥福をお祈りいたします。牧先生、本当にありがとうございました。

### 目次

追悼 牧陽之助先生	1	平成24年度会計決算	4	会員の皆さん、連絡先	8
評議員会報告	2	役員改選	5	をお知らせ下さい	
平成23年度事業報告	2	就職ガイダンスの具体策	5	岩手大学同窓会連合会	8
平成23年度会計決算報告	3	就職ガイダンス開催	5	募金呼びかけ	8
監査報告	3	南国の王様	6	卒業生・修了生の懇談会開催	8
平成24年度事業計画	4	RETIREMENT OR THIRD LIFE?	7	ホームページ一新	8



## ● 評議員会報告

平成24年度の評議員会は、去る6月16日(土)、盛岡市のアイーナ(岩手県民交流センター)501B会議室で、15名が出席して開催されました。会では、以下の議題について討議され承認されました。

中でも、「七友会設立30周年記念事業」費の残額は、平成24年度予算に繰り越して、残務となっている記念DVDの製作・発送経費として支出することになりました。さらに、「就職ガイダンス」への支援の強化のための予算を具体化することにもない、「文化事業補助」を例年より増額しています。

また、役員改選では、会長の九州への転居にともなう補完等も考慮して、吉田真二氏(岩手県庁)、内堀哲氏(ソフトバンクBB株)の2名を新たに副会長に選出しました。

## ● 平成23年度事業報告

平成23年度は「七友会設立30周年記念事業」の成功に向けて全力を傾注しました。7月2日に開催された記念事業には、討論会に約30名、震災からの復興祈念交流会に同窓生130名、先生方27名という多くの参加を得ることができ、盛況のうちに終えることができました。1年以上前から活動していただいた実行委員の皆さんに改めて感謝申し上げます。次回開催を早期に望む声も多く、この記念事業の記録を残すとともに、学部と共同でできる活動についても考えたいと思います。復旧から復興へ、震災の記憶をたやすく風化させぬよう、一助になる活動を考えていきたいと思っています。

大学との関係では「第4回岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会」が札幌で開催され、七友会からは4名の参加ではありましたが、活発な意見交換・交流がおこなわれました。

会報は9月に第33号、平成24年3月に第34号を発行しました。今年度からは、学部教育後援会会員(在校生の父母)へも会報を送付するとともに、5月には新入生の父母へも同窓会の活動について説明をしました。

なお、七友会設立30周年記念事業DVDの完成が遅れ、年度内に発送できなかったことは残念でなりません。

平成23年度のおもな活動は次の通りです。

- |               |  |
|---------------|--|
| 平成23年 5月7日(土) | 七友会30周年記念事業実行委員会(於 港区立男女平等参画センター10名出席)<br>震災後の討論を踏まえ「震災からの復興祈念交流会」として7月2日(土)に開催を決定   |
| 5月9日(月)       | 新入生父母懇談会(於 人文社会科学部 佐原会長出席)<br>今年度から始める教育後援会会員(在校生の父母)への「七友会だより」送付と同窓会の活動について説明<br>事務長と打ち合わせ(佐原会長)  |
| 5月26日(木)      | 岩手大学同窓会連合 第5回理事会(於 岩手大学事務局第一会議室)<br>議題:平成22年度事業報告(案)・決算報告(案)<br>平成23年度事業計画(案)・会計予算(案)<br>役員改選 ほか<br>佐原会長、松岡理事が出席                           |
| 5月吉日          | 「震災からの復興祈念交流会」開催案内送付(退職教官等へ)   |
| 6月吉日          | 「震災からの復興祈念交流会」開催案内送付(会員へ)  |
| 6月11日(土)      | 平成23年度評議員会(於 岩手県公会堂16会議室19名出席)<br>議題:平成22年度事業報告・決算報告・監査報告<br>平成23年度事業計画(案)・会計予算(案)<br>七友会設立30周年記念事業について ほか                                 |
| 6月25日(土)      | 第4回 岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会・懇親交流会<br>(於 KKRホテル札幌4名出席)<br>「震災からの復興祈念交流会」の広告を岩手日報朝刊に掲載   |
| 7月2日(土)       | 「七友会設立30周年記念事業」開催<br>・学部と共同開催による討論会<br>(於 マリオス183・184会議室 約30名参加)<br>・「震災からの復興祈念交流会」<br>(於 ホテルメトロポリタン盛岡ニューウイング 約160名参加)                     |
| 9月29日(木)      | 会報『七友会だより』第33号発行・会員へ順次送付   |
| 11月15日(火)     | 人文社会科学部 就職ガイダンス<br>第一部 講話「社会に役立つ企業人～報道マン・人社OBの視点から～」<br>(於 G1大教室 講師:遠藤隆氏/1期生)<br>第二部 就職内定者の就職活動体験談・情報交流<br>(於 中央学生食堂 佐原会長、遠藤氏出席 全体で70名程参加) |
| 11月19日(土)     | 「七友会設立30周年記念事業」総決算会議(於 花巻なほんプラザ 11名出席)   |
| 平成24年 3月3日(土) | 会報『七友会だより』第34号発行・会員へ順次送付   |
| 3月5日(月)       | 岩手大学同窓会連合第6回理事会(於 岩手大学事務局第一会議室)<br>議題:第5回 卒業生・修了生と学長との懇談会について<br>平成24年度事業計画(案)の検討について ほか<br>佐原会長、松岡理事が出席                                   |
| 3月16日(金)      | 牧 陽之助先生「お別れの会」(於 盛岡グランドホテル 佐原会長、ゼミOB生参列)<br>※牧 陽之助先生(前学部長)は2月28日急逝されました  |
| 3月23日(金)      | 岩手大学 卒業式(於 岩手県民会館大ホール 佐原会長出席)<br>人文社会科学部 卒業祝賀会(於 中央学生食堂 佐原会長出席)  |
| 3月吉日          | 退官教官へ記念品贈呈(5名)<br>退官:砂山 稔先生、Farr. Alan先生、海老澤君夫先生、能登 恵一先生、高野 修先生<br>以上  |

## 平成23年度 会計決算報告

## 1. 一般会計

&lt;歳入&gt;

(単位 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
前年度繰越金	2,147,035	2,147,035	0	普通預金
会費	4,600,000	4,360,000	△ 240,000	20,000円×218名
特別会計より繰入	4,000,000	4,000,000	0	
雑収入	560	726	166	利息
計	10,747,595	10,507,761	△ 239,834	

&lt;歳出&gt;

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 事業費	9,003,791	6,731,227	2,272,564	
1) 会報発行関係	1,800,000	1,433,350	366,650	
ア. 会報等印刷費	900,000	783,930	116,070	会報2回印刷(33・34号)
イ. 会報等郵送費	900,000	649,420	250,580	会報郵送費
2) 会員活動援助費	400,000	593,224	△ 193,224	評議員会宿泊・就職懇談会補助、同窓会連合出席他
3) 卒業記念品贈呈費	100,000	100,000	0	32期分積立
4) 支部援助費	500,000	315,740	184,260	関東支部HP維持管理運営費
5) 文化事業補助	100,000	0	100,000	
6) 寄付金	500,000	500,000	0	人文社会科学部へ奨学寄付金
7) 同窓会連合負担金	500,000	500,000	0	年間会費分
8) 同窓会設立30周年記念事業費	5,053,791	3,241,913	1,811,878	
9) 諸費	50,000	47,000	3,000	退官教員への記念品、甲電等、牧先生お別れの会
2. 会議費	700,000	319,238	380,762	
1) 評議員会会議費	600,000	319,238	280,762	評議員会諸経費
2) 諸会議費	100,000	0	100,000	理事会諸経費
3. 事務費	600,000	446,800	153,199	事務用品、データ管理・HP協賛金他
4. 特別積立金	0	0	0	
5. 雑費	100,000	100,000	0	事務謝金
6. 学部設立40周年記念積立	0	0	0	
7. 同窓会設立40周年記念積立	0	0	0	
8. 予備費	343,804	0	343,804	
計	10,747,595	7,597,266	3,150,329	

## 平成23年度収支決算

歳入合計 10,507,761円  
 歳出合計 7,597,266円  
 差引残高(翌年度繰越) 2,910,495円 普通預金

## 2. 特別会計

&lt;歳入&gt;

(単位 円)

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 前年度繰越金	45,272,637	45,272,637	0	
2. 新規積立金	100,000	100,000	0	
3. 利息	82,378	24,408	(57,970)	
計	45,455,015	45,397,045	(57,970)	

&lt;歳出&gt;

科目	予算額	決算額	比較増減	備考
1. 一般会計へ繰出	4,000,000	4,000,000	0	
2. 積立金	41,455,015	41,397,045	(57,970)	年度末積立金額=翌年度繰越額
1) 特別積立金	28,602,874	28,566,323	(36,551)	利息(16,821円)
2) 卒業記念積立金	3,473,274	3,469,717	(3,557)	利息(1,585円)
3) 学部設立40周年記念積立	7,399,947	7,392,108	(7,839)	利息(3,268円)
4) 同窓会設立40周年記念積立	1,978,920	1,968,897	(10,023)	利息(3,734円)
計	45,455,015	45,397,045	(57,970)	

## 監査報告

本決算は適正に処理されていることを確認致しました。

平成24年6月16日

監査員 小桧山 修 ㊟  
 監査員 工藤 康 身 ㊟

## 平成24年度事業計画

今年度は、七友会設立30周年記念事業の記念DVDを早期に完成させ、参加者に配布します。

学部と共同でできる活動の1つとして、就職ガイダンスへの支援の強化を図り、学生の就職活動への一助にしたいと思います。

また、復興への支援、震災の記憶を風化させないための活動についても、引き続き検討していきたいと思います。

## 平成24年度 会計予算

### 1. 一般会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	備考
前年度繰越金	2,910,495	普通預金のみ
会費	4,600,000	20,000円×230名
特別会計より繰入	0	
雑収入	726	利息
計	7,511,221	

<歳出>

科目	予算額	平成23年度予算額	備考
1. 事業費	6,161,878	9,003,791	
1) 会報発行関係	1,700,000	1,800,000	会報発行(2回予定)
ア. 会報等印刷費	900,000	900,000	
イ. 会報等郵送費	800,000	900,000	
2) 会員活動援助費	500,000	400,000	親睦会・交流会等
3) 卒業記念品贈呈費	100,000	100,000	33期分積立
4) 支部援助費	400,000	500,000	関東支部(ホームページ維持費)、仙台支部 他
5) 文化事業補助	600,000	100,000	就職ガイダンス講師旅費等補助
6) 寄付金	500,000	500,000	人文社会科学部へ寄附
7) 同窓会連合負担金	500,000	500,000	年間会費分
8) 同窓会設立30周年記念事業費	1,811,878	5,053,791	記念DVD製作
9) 諸費	50,000	50,000	慶弔費
2. 会議費	700,000	700,000	
1) 評議員会会議費	500,000	600,000	評議員会諸経費
2) 諸会議費	200,000	100,000	
3. 事務費	500,000	600,000	事務用品、データ管理費、ホームページ協賛金等
4. 特別積立金	0	0	
5. 雑費	100,000	100,000	事務謝金
6. 学部設立40周年記念積立	0	0	
7. 同窓会設立40周年記念積立	0	0	
8. 予備費	49,343	343,804	
計	7,511,221	10,747,595	

### 2. 特別会計

<歳入>

(単位 円)

科目	予算額	平成23年度予算額	備考
1. 前年度末繰越金	41,397,045	45,272,637	
2. 新規積立金	100,000	100,000	卒業100,000円、特別0円、学40周0円、同30周0円
3. 利息	24,408	82,378	
計	41,521,453	45,455,015	

<歳出>

科目	予算額	平成23年度予算額	備考
1. 一般会計へ繰出	0	4,000,000	
2. 積立金	41,521,453	41,455,015	
1) 特別積立金	28,583,144	28,602,874	(28,566,323+16,821)
2) 卒業記念積立金	3,571,302	3,473,274	(3,469,717+100,000+1,585)
3) 学部設立40周年記念積立	7,395,376	7,399,947	(7,392,108+3,268)
4) 同窓生設立40周年記念積立	1,971,631	1,978,920	(1,968,897+2,734)
計	41,521,453	45,455,015	

## 役員改選 (任期は、平成26年度の評議員会による改選まで)

会 長	佐原 和典				
副会長	菊地 良一	高橋 享孝	足立 慎悟	吉田 真二(新)	内堀 哲(新)
理 事	大澤 雅昭	大志田 稜	晴山 農	藤村 紀行	黒沢 成
	高嶋 才司	夏井 正悟	棟方 範幸	大谷 敬	松岡 和生
	佐藤 伸樹	栗林 健司	清野 陽一	佐藤 泰	小野澤章子
監査員	小桧山 修	工藤 康身			
幹 事	内堀真結子				
顧 問	落安 昭三	塩田 勝美	大畑 荘一	井上 博夫(学部長)	

## その他

### <就職ガイダンス支援強化の具体策について>

◇今後(今年度・来年度)の開催について

就職委員長竹村先生・次期委員長内田先生と相談しながら進める。七友会窓口は佐原・松岡を中心に。

・今秋もう一度ガイダンスを開くのであれば協力(女性を含め2~3名依頼可能、時期は9~10月か?)

・例年11月に開催する「学部就職ガイダンス」に講師を招くのであれば候補を探す。

(11月の金曜日であれば、塩田氏(日本旅行)は参加可)

・大学を取り巻く状況は大変厳しい。就職については入学生の父母も強い関心を持っている。

…反面、大学・学部の対応は薄い、軽い、遅いという印象を受ける。

…地方大学の良さを就職活動に生かし切れていないのでは

→同窓会としてできるのは、6/8(土)開催したような「職業を選ぶ際に参考にしてもらおうもの」があるいは、講座を継続的に開き、学生の意識を変えていくことではないか。

→徐々に回数を増やし、定期開催できるように実績を重ねる。費用は同窓会がもつ。

※事業化するのであれば、きちんと予募化する。

## 「就職ガイダンス」を学部就職委員会と共同で開催しました。

去る6月8日(金)、「働くこと・就職を考える」：「就職」と「仕事」について自ら考え、自ら選択していくために…をテーマに、時期としては早めの「ガイダンス」を開催しました。これは就職活動に入る前に、OBの様々な職業の実像を知ってもらうことで、職業選択のミスマッチを減らし、より広い視野を持って就職活動をしてもらうことを願って、試行的に行いました。

第一部では、講師から、これまでの経歴や仕事の紹介、仕事上で求める役割、気をつけていること、社会人として求められることなどを経験に基づいて語ってもらいました。第二部では、公務員、一般企業、資格専門職の3つのグループに分かれて、様々な疑問に答えてもらいました。講師は、井筒敬史氏(税理士法人WELLCANON代表)、佐藤伸樹氏(防衛省)、吉田真二氏(岩手県商工労働観光部)、佐藤泰氏(サトープリンティング株)、内堀哲氏(ソフトバンクBB株)の5名で、他に4名のOBがオブザーバーとして参加しました。学生は、3年生約30名が参加しました。様々な刺激を受けたようでたくさんの質問が出ていました。ただ、女子学生からは「女性の話を聞きたかった」という要望があり、女子の多い学部の特性も考慮して、次回には、女性講師を含めて開催することなどが反省点としてあがりしました。

今回は試行的開催でしたので、実施方法や内容には、まだ検討の余地があります。特に女子学生が多いことは、単に就職のためだけでなく、結婚や再就職への対応、多くなっている転職等への対策などへも、OBの様々な経験が生かせるのではないかと考えています。講師として話したい方、「仕事」についての情報提供等していただける方は気軽に「事務局」にお知らせ下さい。



<退官教官寄稿文（今回は、能登恵一先生とアラン・ファー先生の短文を掲載いたします）>

## 南国の王様

国際文化課程 能登恵一



定年を5年後に控えた春の日、私はこっそりとシンガポールへと飛び立ち、そのシンガポールのチャンギ空港を左に眺めながらタナメラ・フェリー・ターミナルへと向かった。シンガポールは淡路島ほどの小さな国だが、これから更に南下するBintan Islandはシンガポールよりも大きく、しかもインドネシアの一部だ。このピンタン島は船の壁に掛かっている案内板の漢字表記だと民丹島となっている。船着場ではお宿の若者が出迎えてくれていた。その若者は頭にバンダナを巻いている。それはそれでよろしい。額の真ん中の部分を三角に折り畳んで、その尖ったところが上に突き出していて、これがただ一つ気になる。この鉢巻が白かったら気味が悪いだらうと想像した。船着場を出てすぐに物々しい国境警備の検査を受けたワゴンは行き交う車がほとんどない長閑な景観の静かな道を突き進んで行った。暫く走ったところで又もやゲートがあって訝しく思ったが、それは国境ゲートではなくお世話になるお宿の入り口だった。ゲートの上がる様は今はもう無くなってしまったヨーロッパでの国越えを彷彿させる。レセプションの館に着くと、物腰の柔らかな女性が微笑みながらゆったりとしたソファへ案内してくれた。生姜味の冷たい飲み物が供された。インドネシア流に両の手の平を合わせて拝むようにしてSelamat Datang（ようこそいらっしゃいませ）と言ってそれから先は英語で名前を名乗ってくれたが、もとより覚える積もりもないので聞き流す。程なく動物園にあるようなバギーでコテージへと運ばれた。門を開けると茅葺の屋根がかかっている4本の柱だけの居間風の空間に大きなダイニングテーブルを挟んでソファが向かい合っていた。その先に15メートルほどのプールがあってその水はさらに20メートルほど下の海にそそいでいる。その左と右に小さな、それでいて豪華な建物が向かい合っていた。この別荘風のコテージはすべての屋根が茅葺となっている。プールに浸かってみた。ぶかりぶかりと進んで行く様は傍からは海に落ちていくように見えるだろう。もちろん仕切りの壁があって、そこから先の20メートルほど下の海に落ちていくのはプールから溢れる水だけだ。プールの先端の左はテラスになっていてテーブルと椅子が置いてある。右端にはジャグジーがある。ひとしきり遊んだところで下の方に見えるプライベートビーチに行こうということになって地図を片手に歩き出した。見当をつけたあたりで其処にいた例のバンダナを巻いた青年に白砂の磯に行きたいのだが、歩いていかほどか、20分もかかるかと問えば5分あまりとのことで、宿のバギーを煩わすことなく上り下りの道を歩いて行くと、休憩用のリクライニングのベットが備えてある。腰を下ろして一服つけて、小波が寄せる海辺に目を移したらワニの赤ん坊がのそのそと歩いているのが目に入って肝を潰した。恐る恐る近づいてよく見たらそれはワニではなかった。赤い舌をぺろぺろと出しながらよたよたと歩いている。流石に南国の島である。トカゲも是ほどまでに大きくなるのかと感心して眺めていたが、何かの拍子に目をそらした際にその姿は消えてしまった。同道の皆さんにワニだ、オオトカゲだと騒ぎたてたのだが、あれはイグアナだと教えられた。夜更けに浪の音を聞きながら星空を仰ぐジャグジーの露天風呂を独り占めにしていたら、どこかの筋から鳥の啼くような甲高い声が聞こえてきた。夜鳴き鳥だろうと解説を試みるも、壁にはりついているヤモリの声だと教えられてまた肝を潰した。戸締りを確かめ、ヤモリの進入を塞いで、三方にレースが垂れ下がっている大きなベットに入り、南国の王様のような心持になって深い眠りについたのだが、雪解け間もない盛岡に帰ってきたら、私は学生委員長に選出されていた。教授会をさぼった報いだったのかもしれない。定年を迎えた今こうした報いは最早起こるはずもなくほっとしている。

## RETIREMENT OR THIRD LIFE?

国際文化課程 Alan Farr



Human consciousness inevitably leads us to attempt to understand the meaning of life and its corollary: How should we live our lives? Manu proposed "Four Stages" for Hindus while Shakespeare suggested "Seven Ages of Man", and countless philosophers, thinkers, religious and secular, have bequeathed mankind the fruits of their cerebral labors on the mysteries of existence. But even those of us who are disinclined to indulge in philosophical speculation find that retirement, to paraphrase Dr. Johnson speaking of an impending execution, "concentrates (the) mind wonderfully".

One takes stock of one's lived life, acknowledging the truth of Kierkegaard's apothegm that life must be lived forward but can only be understood backwards, as the contours of the past present themselves in an unexpected light. At the same time one must look to what remains of the future and one becomes keenly aware of the necessity for a new resolve to meet the material and mental challenge of living one's daily life in the face of physical decline. As Betty Davis once quipped, "old age is not for sissies".

But retiring at 65 is decidedly not "old age" for people living in a technological society where improved diet and modern medicine have dramatically extended average life expectancy. Thus in the West the newly-minted term "Third Ager" refers to retirees who are looking forward to rewriting the conventional script of life's passage by beginning a "Third Life" in a "death-defying" novel accounting of the human lifespan. This "Third Life" is not only driven by financial necessity but is about finding new ways to live life to the fullest in the spirit of Dylan Thomas who urged us, "Do not go gentle..."

Retirement takes many forms in today's society; in my case it is not the fantasy life of a "lotus-eater" lounging on the fat cushion of a gold-plated pension, but the reality of many "baby boomers" who must continue to work because of inadequate pensions and savings. However, this may be a blessing in disguise for a person with creative energy.

While many retirees struggle to survive in the West, I have been fortunate here in Japan to have been able to keep a connection to my profession by part-time teaching. A gratifying remuneration for a lifetime devoted to the acquisition of knowledge and an understanding of the human condition, and ever a source of my enthusiasm as a teacher of language and culture to 「大海を知らず」 Japanese students has been the privilege of witnessing their intellectual development and emotional growth. 皆さんありがとう。

It is unlikely that today's young generation of students will have it any easier When they retire, so I hope that I and other working pensioners will be able to serve as an example to them by living full lives and finding joy in all our creative endeavors.

会員の皆さん、連絡先をお知らせ下さい

同窓会では、毎年このような会報を発行しています。これらを皆さんに送るためには、連絡先の把握が重要になりますが、転居等で連絡先が不明になることが多く、現在、4割強の方が不明状態になっています。

連絡先は現住所でも実家等家族住所でも構いませんが、確実に連絡のつくところをお願いします。転居等の際には郵便局への届出と共に、事務局へもお知らせ下さい。

なお、寄せられた情報は同窓会活動のみに利用されるもので、事務局で一括管理されています。また、会費については、ほとんどの方が入学時に納められていますので、特に請求されることはありません。同窓会活動は、ほとんど会員のボランティアで運営されています。今後の学部的发展及び同窓会の親睦のための活動に、ぜひ御協力下さい。

※友人で会報の届いていない方は、連絡先不明になっている可能性があります。すぐに事務局までお知らせ下さい。

連絡先情報

Form with fields for name, address, phone, fax, email, and family contact info.

岩手大学同窓会連合

第7回の岩手大学同窓会連合理事会は、去る6月11日(月)15時より、岩手大学事務局第一会議室にて開催されました。七友会からは、佐原会長、松岡理事が出席しました。

議題は、1)平成23年度事業報告(案)について、2)平成23年度決算(案)について、3)平成24年度事業計画(案)について、4)平成24年度予算(案)について、5)その他、でした。

平成24年度の事業のうち、6月30日(土)には、5回目となる「岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会」が東京で開催されています。また、昨年3月から大学とともに呼びかけていた、いわゆる「被災学生支援募金」の残額と原資として、岩手大学独自の給付型の「奨学金」を行うことにともない、「被災学生支援募金」を引き続きお願いすることになりました。会員の皆さんの御協力をお願いいたします。詳しくは、岩手大学ホームページ等で御確認下さい。

『岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会』が開催されました。

5回目となる「岩手大学卒業生・修了生と学長との懇談会」は、去る6月30日(土)15時より、東京・市ヶ谷の「アルカディア市ヶ谷」にて開催されました。大学側からは、藤井克己学長をはじめとして、各学部長など9名が出席し、卒業生・修了生135名(うち七友会は13名)と懇談しました。

会は、大学や学部による「震災から復興への取組み」を中心とした現状説明があり、参加者からの質疑・応答が進められました。会の終盤には、工学部建設系OBによる被災地支援活動「きたかみ会学び地応援隊」についての紹介と協力の呼びかけがありました。

懇談会終了後は、会場を変えて、会費制の「懇親会」が行われました。こちらにも多くの方が参加され、各同窓会を中心に話の輪が広がり、個人的には、教育学部卒の元寮生と再会するなど、めずらしい出会いもありました。

これらの様子は、12月発行予定の同窓会連合の会報で詳しく紹介されますが、七友会ホームページ(http://www.jinsya.com/)でも掲載していますので、ぜひ一度アクセスして下さい。

「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生支援募金」の呼びかけ

岩手大学では、今回の東北地方太平洋沖地震により、津波で実家を失うなどの被災に遭った学生が、新年度の入学を含めて少なくありません。そこで、この学生たちの修学を支援するために、教職員、学生、関係各位の皆さまに、「東北地方太平洋沖岩手大学被災学生募金」をお願いすることとしました。

被災学生に対しましては、本学として入学料免除、授業料免除などできるかぎりの支援を行いますが、皆さまからの募金も、被災学生の修学支援に有効に使わせていただきたいと思います。

将来ある学生たちが直面する困難な事態に怯むことなく、果敢に立ち向かっていくことを心から願ひ応援する意思を込めて、皆さま方のご協力を切にお願い申し上げます。

平成23年3月24日

国立大学法人岩手大学長 藤井克己

1. 振り込みの場合

口座名は、いずれも「東北地方太平洋沖地震岩手大学被災学生募金」です。なお、恐れ入りますが、振込手数料につきましては、ご負担いただくか、振込手数料を差し引いた金額をお振り込み願います。

郵便振替…口座記号等号 0220-9-126766

※郵便振替伝票の色は「青」です

(他行からの振込口座) 店名 229店

預金種目 当座

口座番号 0125776

銀行振込…岩手銀行 上田支店 普通預金 口座番号 2039425

2. 現金書留、直接持参の場合

窓口は、

〒020-8550 盛岡市上田3丁目18-8

「岩手大学総務企画部総務広報課」(岩手大学事務局棟2階)

3. ご寄付いただく方(振込・現金書留・直接持参の全て)

なお、ご寄付いただく方(振込・現金書留・直接持参の全て)にはお手数をおかけしますが、別紙の「岩手大学被災学生支援募金申込書」に必要事項をご記入の上、岩手大学総務企画部総務広報課へ送付下さいますようお願いいたします。

ご寄付いただいた方にはお礼状と領収書(寄附控除申告用)をお送りいたします。

ホームページが一新しました
ぜひ、アクセスして下さい

昨年の「30周年記念事業」終了後「工事中」となっていたホームページ(http://www.jinsya.com/)が一新しました。行事案内や報告、事務局からの連絡などが随時掲載されます。また、住所変更等の手続きもできます。関東支部のホームページではありませんが、同窓会事務局が直接関わっていますので、新しい情報は、ここを中心に発信されています。ぜひ、アクセスして、感想等をお寄せ下さい。

岩手大学人文社会科学部同窓会 <七友会>

〔郵便宛先〕020-8550 盛岡市上田3-18-34

岩手大学 人文社会科学部内「七友会」宛

〔事務局〕Tel(留守録)& Fax: 047-336-3945

E-mail: jimu@jinsya.com

ホームページもご覧ください!

http://www.shichiyukai.net/

http://www.jinsya.com/ [関東支部]